Vol.
01

Shumei International

NEWSLETTER

Shumei International is dedicated to improving the human condition by restoring the environment, by fostering a deep appreciation of beauty and the arts, and by cultivating leadership among the next generation.
Shumei International has programs around the world. The organization is based upon the philosophy of Mokichi Okada. He taught that cultivating respect for nature and appreciation of the inherent beauty in the natural world will inspire a more humane and sharing vision for the world community.

Shumei International
NEWSLETTER
Vol. 01

Contents

3 秀明インターナショナルの活動

SPECIAL TOPIC

パン アジア ユース リーダーシップ サミット

4-5 ■ サミットの概要

6 ■ 理事長のご挨拶

7-13 ■ モーリス・ストロング氏基調講演

14 ■ 参加者の声

16 ポール・ウィンター･バレンタインコンサート

17 秀明太鼓ヨーロッパツアー

18 アンサンブル・チェリシム2004

18-19 地球交響曲第五番上映会 & 龍村監督講演会

19 MIHO MUSEUM～障がいのある方の特別開館

20 秀明自然農法しがらきの里紹介

秀明インターナショナルの活動

秀明インターナショナル(Shumei International)は、岡田茂吉氏(1882-1955)の理念に基づき、1.環境問題への取り組み、2.優れた芸術による人心の向上。3.国際協力の3点を基本的なプログラムとして実践し、この実践から個々の人間性、精神性の向上、ひいては世界の平和に貢献することを目的として、平成15年11月に滋賀県の特定非営利活動法人(NPO法人)として認可を受け設立されました。

1. 環境への取り組み

生命の基本要素である食、水、空気の環境が悪化し持続不可能な状況に向いつつある現代社会のなかで、今私たち一人ひとりの生き方、意識の変革が求められています。

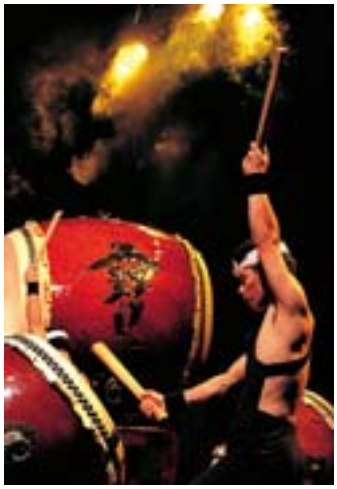
秀明インターナショナルは、「環境と精神性」をテーマに講演会、研究、支援活動に取り組むと共に、NPO法人秀明自然農法ネットワーク(SNN)と協力し、自然との共存に基づく再生可能な農業の実施と新しいライフスタイルの開発の推進に取り組んでいます。

また、9月には地球交響曲第5番の上映会、龍村監督講演会を行い、“母なる地球に生きる私たち一人ひとりの生き方”をメッセージとして発信しました。

2.優れた芸術プログラムの実施

美による人心の向上ー優れた芸術家の魂が込められた作品、それは音楽、絵画、彫刻等分野を問わず、直接心に語りかけてきます。その感動は自ずとわたくし達の心をより高く、美しい世界へといざなっていきます。人々の心が変われば社会が変わり、そして世界が変わるに違いありません。

秀明インターナショナルは、2月にポール・ウィンターコンサート、8月にアンサンブル・チェリシムのコンサートをびわこホールで行いました。特に2月のポール・ウィンターコンサートでは滋賀県下の子どもたち、障がいのある方々を公開リハーサルに招待し大変喜んでいただきました。また、10月にはMIHO MUSEUMの協力により、「障がいのある方の特別開館プログラム」を実施しました。今後も秀明太鼓、MIHO MUSEUMの協力によるプログラムの実施を含め、美しい優れた芸術を広く紹介し、芸術を通した人心の向上に力を入れていきたいと思います。



3.国際協力

一国の問題が世界に影響を及ぼし、我々の行う小さな活動が世界に影響を及ぼし得る現代は、自国の国益に捕われず、グローバルコミュニティーの感覚で世界大の視野を持つ人材が多く必要とされています。

秀明インターナショナルは、国連プログラムへの参加、アメリカ　コロラド州の秀明国際交流センター(SII)と協力しての環境学習、EDUCOコロラドと協力しての野外研修など様々なプログラムの実施を通じ、今後の世界を担う次世代の育成に取り組んでいます。

昨年9月は、国連開発計画(UNDP)と女性世界平和会議(GPIW)に協力して広島青年平和会議をサポートしました。本年はこの青年会議が南米、ヨーロッパ、そしてニューヨークへと続いていきますので、引き続き協力していきたいと思います。

パン アジア ユース リーダーシップ サミット

開催日 2004年9月19～21日
開催地 広島
会　場 広島国際会議場

「生まれながらによき市民である人も、最初から民主主義の国もない。
これはどちらも、一生を通じて発展を続けるプロセスなのだ。
生まれたそのときからこのプロセスに参加させなくてはならない。
若者を切り離す社会は生命線を絶っているのだ。」

コフィ・アナン
国連事務局長

▶サミットの概要

国連では9月19日を世界中のコミュニティーがより深い理解と良識を生みだす対話と活動に取り組む「国連平和デー」と定めています。この19日から22日までの四日間、パン アジア ユース リーダーシップ サミットが、広島国際会議場をメイン会場に「国連開発計画（UNDP）」と世界平和と開発においてリーダーシップを推進している「女性世界平和会議（GPIW）」の共催により開催されました。国連が主催するこの意義ある会議に日本側のサポートとして、秀明インターナショナルが協力するという好機を得ました。本会議が始まる前の15日～18日まで、正式参加者約100名の中から有志13名がShumeiオプショナルプログラムに参加しました。彼らは、MIHO MUSEUMの見学により世界各地の芸術品を、そして瀬戸内海の黄島においては大自然の恵みを体感する環境プログラムそして、秀明自然農法により再生可能型農業の体験をしました。そして、日本のファミリーと一緒に過ごすホームスティでは、本当の家族のような絆を得ることができたようです。心がふれあい、人と人が結ぶ絆の大切さと強さを感じる数日間となりました。

▶サミットの目標

平和と持続可能な社会、文化に関するこのサミットの目標は、「直面している困難に立ち向かおうとしている青年リーダー達を発掘し、励まし、サポートすること」とされました。

2000年に国連総会は世界が直面している最も危機的な問題に対処するために「ミレニアム開発目標（MDGs）」を採択しました。国連はより平和で持続可能な豊かな世界の形成のために各国にこれらの目標を達成できる組織づくりを奨励しています。

ミレニアム開発目標（MDGs）とは・・・

1. 極度の貧困と飢餓の撲滅
2. 普遍的初等教育の達成
3. ジェンダー※の平等の推進と女性の地位向上
4. 幼児死亡率の削減
5. 妊産婦の健康の改善
6. HIV／エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止
7. 環境の持続可能性の確保
8. 開発のためのグローバル・パートナーシップの推進

※ジェンダーとは、身体のつくりや遺伝学上の相違以外の、社会的・文化的・心理的な意味での性の違いをあらわすことばである。

パンアジア ユース リーダーシップ サミットでは、各地域における「ミレニアム開発目標（MDGs）」に対しての現況を検討し、目標達成へ貢献するために、どのようなプロジェクトに取り組めるのかを模索しました。

「国連開発計画（UNDP）」発行物より

今回このサミットに広島の地が選ばれたのは、青年リーダー達が「ミレニアム開発目標（MDGs）を基盤とし、文化交流を協力の手段として、戦争の無い世界に向かっての活動を鼓舞するためです。原爆資料館や生存者の証言に見られる広島で起こった悲劇を目の当たりにすることは、青年たちが彼らと彼らの住むコミュニティーの為に平和な世界を創造しようという刺激を与え、彼らが平和へのリーダーシップを取っていく為に非常に役立つに違いありません。現に、資料館を訪れ、被爆者から生の体験を聞いた彼らからは、多くの質問が投げかけられました。

▶プログラムについて

サミットには、アジア中から世界平和へ貢献している活動（環境問題、人権問題、インターフェイス活動、貧困解決や文化交流などの分野）においてリーダーシップを発揮している青年の代表が集められました。

プログラムは、専門家が問題とその解決法を提議する総会、パネルディスカッション、活動発表、分科会の四つに大きく分けられ、この中で青年が国境を越えて協力をできるプロジェクトを生みだすことが目標とされました。活動を発表し、専門家から将来直面するであろう最も差し迫った困難について

戦争の無い世界に向かっての活動を鼓舞する

互いの認識を深めます。

青年は、民主主義的な政治のより一層の実現化において市民社会の役割としてどのように国連の活動に参加できるのか、また地域の問題を解決するためにNGOがどのように活動できるのかを探りました。

▶若者の世代こそ人類の希望

国連事務総長特別顧問モーリス·ストロング氏そして秀明インターナショナル小山理事長の訴えにもありました通り、人類は、地球環境破壊を始めとする大きな課題を抱えるこの地球を守らねばなりません。破壊された自然を取り戻す責務を負っています。勇気をもって克服していかねばならないのです。それには、世界中の若者達がこの事実に目覚め、意識を持ってこの課題取り組むことが不可欠です。

今回のサミットによりアジア太平洋地域に一つのネットワークが新たに生まれました。サミットは、アフリカに始まり、今回のアジア、そして次に南アメリカ、ヨーロッパ、カナダと続き、2005年にはニューヨークにて世界ユースサミットとして世界中の若者が結集することになっています。

このネットワークは、世界中へと広がりを見せるに違いありません。今回生まれた小さな繋がりを大切に大きく発展させていきたいと願っています。それは、必ずや世界平和へ通じる道と信じるからです。

秀明インターナショナルは今後もこのサミットを応援し、多くの人材の育成に取り組んで参ります。

理事長のご挨拶

秀明インターナショナル 理事長
小山　弘子
Hiroko Koyama

おはようございます。

アジアの将来のリーダーになられるあなた方と共に今此処にいることを大変嬉しく思います。私たちはあなた方の世代に大きな希望を託し、期待しています。少し重荷と思われるかもしれませんが、それはまた変化をもたらし、大きな可能性が広がる機会にもなるのです。現在、世界は私が皆様方の年代だった時とはとても異なります。今後ももっと変化するでしょう。ですから、方向性を選ばなくてはなりません。皆様方は貧困や新たに健康に害をもたらすような環境の悪化をこのまま続けるのですか？それとも、これらの問題を食い止めたいですか？

このサミットは、皆様と仲間の方々が、それぞれの地域で直面している問題への理解を支援しようとするものです。それにより皆様方はより良い取り組み方を見つけ出されることでしょう。手段、知識、専門技術の共有は私たちの貧困、病気、環境汚染の撲滅のための取り組みに必要となります。問題は深刻ですが、私たちが意志を持って取り組んでいけば、これらの問題を克服する力を充分以上に持っているのです。健康、平等、美と善が溢れる世界を我々は共に創造できるのだと深く信じています。皆様方はしっかりこのビジョンを持たなくてはなりません。私たちは今までの経験や知恵を元に、皆様方が将来の計画をつくる上での導きと手助けをしていきたいと思います。

今年のオリンピックにおいて国連と国際オリンピック委員会は、古代オリンピックの伝統であった期間中の停戦を求めましたが、残念ながら成功はしませんでした。国連事務総長コフィー・アナン氏は、「全てのアスリートたちが世界記録に向かって努力するように、私たちも世界平和に向かって諦めることなく努力を続けなくてはならない」とおっしゃいました。そして、「世界平和を実現させるのは、非現実的なように思うかもしれないけれども、可能なのです。すべてのアスリートたちが夢なくしては何も起こらないと言っているように。」とつけ加えられました。
皆様方はこの事務総長のお言葉を忘れないで頂きたいと思います。目標に向かって進む事を決して止めてはいけません。

私ども秀明インターナショナルは環境の再生に全力で取り組んでいます。平和をもたらす為には環境バランスの回復が不可欠なのです。私たちがお互いに影響を与え合うように、私たちの行いは自然界へも影響を与えていきます。環境の再生に当たって、まず自然界は相互に繋がりあっているということを理解しなければなりません。私たちが日本で行う環境への取り組みそのものが、皆様方また世界のあらゆる地域に影響を与えるのです。これと同様に皆様方、また世界のあらゆる地域の活動が全世界に影響を与えていきます。このサミットによって、皆様方が自然のバランス、生来の調和を尊重し、生態系に優しいライフスタイルを発展させるために、なぜ共に行動しなければならないのかということの理解を深めて頂ければ嬉しく思います。それは、より平和な社会づくりに繋がっていくに違いありません。

本日ここに、国連における環境プログラムの発展に貢献しているある方をお招き出来た事を大変光栄に存じます。この方は、1990年代初めの国連地球サミットを指揮されました。限られたこの時間で、彼が環境保全の意識向上に努めた功績を述べる事はとても出来ません。そして、今も世界の最も深刻な地域の平和の為に活動を続けておられます。彼は人間1人がどれだけ偉大なことができるかという実証を示し、私に多大なる影響を与えて下さる方であり、また大切な友人でもあります。

国連事務総長特別顧問でいらっしゃるモーリス・ストロング氏です。

（日本語訳：山添 寛之）

モーリス・ストロング氏 基調講演

国連事務総長特別顧問
モーリス・ストロング氏
Maurice Strong

**人類の未来の大きな部分が
アジアで形成されること、
その決定を下すのは
君たちの世代であることを、
私は確信している。**

小山さん、ご紹介ありがとうございました。小山さんのリーダーシップは素晴らしいと思います。そして、秀明インターナショナルが熱心に取り組み、世界市民、世界的な責任という大きな責任を担ってこの会議を準備してくださったことを心より感謝申し上げます。UNDPの皆さん、本当に今までいろいろとご苦労様でした。また、ジャブリル部長は今回出席できないということで、ビデオメッセージがありましたが、スタッフの皆さん全員が一生懸命準備していただいたと思います。また、今回取り上げる目標に献身的に取り組んでいるアナン国連事務総長に代わり、この会議が召集されたこと、これが国連にとりまして本当に重要性をもっているということをお伝えしたいと思います。

マーク・マロックブラウンUNDP総裁からも、私の思いと同感であると伝えてほしいとのことでした。私はその他にも何人もの名前を申し上げたいのですが、割愛させていただきます。

予定ではもうコーヒーブレイクの時間の終わりになっているんじゃないかと思いますが、今まで素晴らしい刺激的な講演をいただいたのに、私の基調講演ということでコーヒーブレイクもとれないのは困ってしまいますが、その刺激をできるだけ持続したいと思います。私もここに座っていましたが、今朝、皆様は素晴らしいお言葉をお聞きして、多くの知恵を頂だかれたのではないかと思っています。そして、基調講演者の前に素晴らしい人々が出て、私は何者だと思われるかもしれませんので、いくつかのコメントに留めておきたいと思います。

皆様、今回この広島ほど素晴らしい場所を他に選ぶことはできなかったと思います。私がここに来てまだ少しの時間ですけれども、原爆の悲劇から立ち上がって素晴らしい都市を再建していく過程において、広島の人々は大変な回復力、豊かな工夫、発明の才を示しました。それらの特質によって、大戦後、日本は平和なる進歩のモデルとなってきたのです。現在、国連におきましても、世界におきましても、最悪の現状となっている中でこの会議が開催されるということ、平和的に安全保障が守られている日本において召集されていることは本当に意義深いことだと思います。我々がここに集っているのは、あなた方、若い人々がいるからです。私にも皆様方の年齢の頃がありました。そんなに昔ではありませんよ。そして、皆さんも私の年になるのです。この2つは事実です。そして、この2つの間に何があるか、ということが重要なのです。私は、この間の時間を過ごしてきました。しかし、あなた方はこれから、そういった時期を迎えることになるわけです。そのような中で我々はこのミレニアムの始まりに際し、過去の1世紀は破壊的な世紀、高度化した破壊の時代であったことを思い起こすわけです。未曾有な科学やテクノロジーを使って破壊行為を最大限に発揮してきた時代であり、今でも大量破壊能力を使い続けていることを知らなければなりません。非暴力を実践されたマハトマ・ガンジー氏は「近代的な文明は西洋汚職によって代表されるものであり、物質が蔓延している世界である。暴力が蔓延している。それを実際に捨て去らなければならない。」と仰いました。

広島は戦争と核の時代を代表するものと考えられてきました。そういった意味で日本の経験は重要な役割を果たすこと

世界のコミュニティーは新しい将来の脅威に直面している。

ができます。世界のコミュニティーは新しい将来の脅威に直面しています。その脅威は、技術文明によりたくさんの便益を作り出してきた工業化や都市化と同じような過程から起こってきます。核戦争は心臓麻痺や脳卒中と同じようなものです。それはほとんど前触れもなく起こるのですが、発症する寸前でも防ぐことは可能です。一方、地球の資源や生命維持系統をむしばんでいく環境破壊の脅威は、癌のようなものです。潜伏している間も徐々に進行していき、表面に現れたときにはもう手遅れなのです。取り戻すことはできないのです。

私はこの地域の生まれではないのですが、皆様方が生まれるより早く、50年以上前に生まれました。そしてかなりの時間をこの地球上で過ごしています。これからもそうしていきたいと思っています。その間に私は、この地球における我々の将来の生活というのは、広大なこのアジア地域で何が起こるかに決定されると思うようになってきました。地政学的な力の軸足は、アジアに移っているのです。アジアは青少年の地域です。他の地域に比べても青少年の人口が多いのです。このミレニアムの初めの数十年間のうちにアジアで何が起こるかによって人類の将来の方向性が大きく左右されると思います。そして、皆様方によってその方向性付けがされなければなりません。なんとすばらしい責任であり、チャンスでしょう。地球の運命は皆様方の肩にかかっているのです。何をするか、何をしないかによって変わってくるのです。だから、この会議が重要なのです。

多くの青少年にとって世界は威圧的で望みのない場所に思われるかもしれません。貧困から逃げ出し、巨大な富の影響をできるだけ和らげようとして、反社会的な活動に傾くことがあるでしょう。それによって暴力行為、疎外感、薬物、犯罪へとおちいっていくのです。その中で、社会が青少年に対し、より良き社会に向けた前向きな貢献にチャレンジさせ、その興奮と満足感を味あわせてあげることが重要であります。私はこのことを経験から知っています。私の国際的な活動は10代の頃から始まりました。幸運にも10代の頃から国連に関わることができました。

ぜひ、皆様方に私の経験してきたことを聞いていただきたいのです。私は師ではありません。私の経験を実践家として聞いていただきたいのです。何年もの間、人間にとって安全で平等で持続可能な将来を確保するには何が必要かということに携わってきました。

科学は、1992年のサミットで呼びかけられた方向性の転換にどれだけの時間がかけられるのかは教えてはくれません。しかし、はっきりしているのは、持続可能な開発への転換が遅れれば遅れるほど、より難しく、より費用もかかるようになり、成功の確率は低くなっていくということです。

私たちの祖先は自然と親密な相互関係を持っており、自然を理解し、自然を精神的な生活の中心として用いてきました。イロコイ族のLeon Shenandoah（レオン・シャナンドー）大酋長は、「我々は自然と調和して生活しなければならない。過剰な搾取は我々自身を破滅へと導くだけだ」と仰いました。

カナダの私の故郷でのネイティブの方々との出会いや北のイヌイットの方々との出会いが私の環境教育の基になっているのです。そして、そこで学んだことが、私が今まで行ってきた全ての環境活動の中における指針となっているのです。

モーリス・ストロング氏　基調講演

我々は今、その同じ地球に住んでいますが、状況は私たちの祖先が住んできた世界とは違うのです。この時代は、非常に複雑になってきました。皮肉にも、生命の基本要素である食料、水、空気が、我々現代生活の無駄な生産物で汚され、私たちの健康や幸福を脅かしています。テクノロジーももちろん、この問題への対処法を与えてくれます。しかし、自然のプロセスや循環を損なうのではなく、自然とともにあり、協調することが重要なのです。例えば、食料生産に自然な方法を用いるように。

今までの荒廃は心ない怠慢から起こったのです。地球は無制限の資源があるかのような幻想をいだいていました。そして、レイチェル・カーソンが『沈黙の春』で警告を発しました。1972年のストックホルム会議で国際的な取り組み課題ができました。工業化、都市化によって人間の便益は生まれたものの、それによって環境コスト、社会コストは非常に上昇し、人間の将来が驚異にさらされていることを世界各国が共に認

めました。インド首相であったインディラ・ガンジー氏はそのときの会議（ストックホルム会議）で「貧困こそが最大の汚染者である」と仰っています。首相は、環境破壊と持続可能でない開発の最初の犠牲者は貧しい人々だと理解されていました。貧困によって、自分たちの生活に必要な資源が破壊されているのです。彼らは、自分たちを自然災害から守ることすらできず、その災害は持続可能でない開発が原因となっていることが多いのです。

我々は歴史上もっとも豊かな文明であります。しかし、それをもっとも賢い形で使ってはいないでしょう。我々の文明に対する屈辱ではないでしょうか？全ての人々を貧困や苦しみから開放する手段を持ちながらも、貧困や苦しみがまだまだ存在しているのです。これらの状況を踏まえ、具体的な形としてミレニアム開発目標が策定されました。このことに関しましては良き友人であるエルナ・ウィットラー特別大使が一番よくご存知かと思います。

インドの方をもう一人紹介させてください。ジャワハルラール・ネール首相も「お金の不思議な挙動」という記事を書かれたときに「貧困と富裕の間には大きな隔たりがあり、それらは隣り合わせに存在している。もし、資本主義が十分に発達

古い慣性を断ち切り
新しい未来へ歩みを進めることが必要。

しなければ、科学の進歩にあわせ、他のシステムが生まれてくるだろう」と仰っています。最近のエコノミスト誌の記事では、「『労働者階級が資本主義の中では失墜してしまう』というマルクス主義の予測は完全に肯定はされていないが、持つ者と持たざる者の間の広がりつつある格差をみれば、現時点でマルクス主義が正しかったと言えるのではないかと考える人も出てきている」と述べています。

我々は、将来の持続可能な生活をつくりだすための戦いの初期段階におり、ここで種としての我々の運命を決定し、地球上の他の生物にも大きな影響を及ぼしていくことになるのです。私たちは今、自然界が持続可能な状態ではないことを知っています。私たち人間は、地質学上の歴史ではほんのわずかな部分でしか地球上に存在していないのですが、今、これら全ての状態を修正する局面に迎えています。反対に私たちには、知識はあるのです。能力はあるのです。その持続可能な開発を展開してく必要があり、リオ・サミットで呼びかけがなされ、その時のアジェンダ21において全体的な行程表が提示されました。進展はしているのですが、まだ転換とまでは至っておりません。

それでここで思い出しておきたいのは、社会責任を変革していくような大きな運動はいずれも利害や主義の異なる団体から抵抗を受けたということです。奴隷取引や幼年労働の廃止や、衛生管理やその他の健康対策に伴う課税、工場や鉱山での労働条件の改善を行ったときも同様でした。そのような時はいつも、影響を受ける企業からその対策は経済的に大変な負担となると大きな批判がありました。しかし今では、私

たちの生活の中に溶け込み、経済は成長を続け、人間の寿命や福祉が増進されてきたのです。

さて、慣性というものは、人間の取り組みにおいても物理界においてと同様に大きな力であります。問題への意識とそれに対する取り組みが増加していくとしても、慣性によって私たちは持続可能でない生活を続けてしまいがちです。従って、この慣性を断ち切り、そして新しい勢いを作り出し、持続可能な将来に向かって歩を進めていくことが必要だと思うのです。そこにこそ、我々の生存と安寧があるのです。ミレニアムゴールを達成するには、この新しい道を歩まなければなりません。この新しい慣性が、私たちのこの目標達成を後押ししてくれるのです。

私たちは、知識もあります。我々が起こしているダメージも知っています。対処の仕方も知っています。しかし何故、持続可能な開発への道を作る政策と行動の実行が遅々として進まないのでしょうか。実行には動機付けが必要だと思います。

工業化された社会においては、今までと同じ生産と消費のパターンでは維持していくことができないという様々な証拠が出てきています。先進国、特にアメリカや私の母国であるカナダにおいてはより重要な問題だと思います。リオ・デ・ジャネイロでの地球サミットにおいて、当時のブッシュ元大統領

モーリス・ストロング氏　基調講演

は、「アメリカのライフスタイルを変えることはできない。」と述べました。そして、その息子のジョージ・W・ブッシュ大統領はこの点を更に強調しています。

しかしながら、我々の国と他の国々との紛争の主な根源はこの点なのです。我々が自分たちのライフスタイルを変える変えないに関わらず、我々の先進国のライフスタイルは変わっていかなければなりません。変わることを恐れてはならないのです。私たちは既に、健康や栄養、福祉の点において大変大きくライフスタイルを変えてきました。

工業化した社会においても、特にこの日本において、工業効率の改善によって環境への影響が改善され、製品の付加価値を高めている例がたくさん見られます。同様の例が他の国でも増えてきています。

エネルギーの供給、食料や水の需要に対する不足は、アジア太平洋地域の多くの地域にとって大きな問題となってきています。この問題は、私が最近よく訪れている中国でははっきりと表れています。その他のアジア各国においても同じようなジレンマに陥っています。改めて皆様に言う必要はないと思いますが、変化を促進するということにおいて、市民社会の役割、特に若者の力が非常に重要になってきています。グローバル化と呼ばれる現象が、すべての社会の発展にますます広範に影響を与えるようになってきました。また、これによって反動が起きていることも事実です。変化の潮流を見てみますと、我々のもっとも豊かな文明をつくりだしたとともに、勝者と敗者の間にギャップが生まれたのも事実です。

テクノロジーを使い、それによって人々の声、特に若者の声を伝え、それらの意見や質問に対し、政府や官僚から、まじめな回答を得ることが大事だと思います。こうした方が街頭で声をあげるよりも、より簡単で効果的です。

また、女性の地位を向上し、社会への完全で平等な参加機会を奪っている制約や不平等をなくす運動は、日頃取り上げられている以上に、たいへん重要であると考えます。そして、今まで成し遂げられることなく、あなた方の世代に残された課題となっています。男女平等はいくつかの国において進展してきました。それによって経済的にも社会的にも生活を豊かにしてきました。しかし多くの国々で、女性は平等な権利や機会を与えられていません。時には深刻な、非人間的な差別にも陥っているのです。

私はだんだんと年を重ねるにつれ、人間がつくりだした文化の重要な役割を認識するようになってきました。文化によって我々の価値観、信念、志が形成されるのです。そして文化を通じ、それらが美術、音楽、文学、演劇に表されるのです。

平和のためには変化と取り組みが必要です。

そして、行動にも表れるのです。我々は文化の産物です。人間の文化の多様性は、人間生活の豊かさ、独自さの源です。しかし、その多様性が紛争や分裂のもとにもなり得ます。その違いから、あるグループが他のグループに対する優越性を主張し、支配しようするのです。

エコロジーを見てみると、この物理的な世界において非常に多種多様な要素を持った生態系は、同時に最大の強さと弾力を持っていることが分かります。人間界も同様であり、そうに違いないのです。それは、お互いの違った文化に敬意をもって接し理解するということです。普遍的な価値、原則を見つけるよう努力して異なる文化に触れ、共通の利害を確認することが必要です。私たちはこれらの考えに触発され、この考えが地球憲章をつくるメインテーマでありました。さまざま宗教や信条を持った人々が参加して作成されたことを嬉しく思います。

平和と安全保障は広島において語る際に絶対条件です。それらは、持続可能性と貧困撲滅のために不可欠な要素です。戦争や暴力紛争によって環境は破壊されました。戦争、紛争への対価は、その時の死や苦痛に止まらず、多くの人間が生活の糧にしている資源を破壊し、侵してきました。生活や生命が剥奪されました。日本に来て、日本の安全保障に対する取り組みこそが非常に重要であると思っています。カナダもその取り組みを日本とともに行っています。また、平和と持続可能な開発の間には根本的なつながりがあると考えています。ですから最近、事務総長からの国連平和大学の概念を更に活性化し、広めてほしいという依頼を引き受けたのです。この大学は、1980年の国際規約により、国連総会によってサポートされたものです。国連の安全保障の目標達成のため教育訓練やリサーチといった研修を充実させた平和大学が必要だということです。平和は武器を捨てるだけでは作られません。平和のためには変化と取り組みが必要です。そして、そのための技術を身につけ、人間関係を構築することが必要です。それには集中した努力が必要なのです。これらを平和大学でやっていきたいのです。なぜ、より良い、持続可能な世界をつくるための運動が停滞し、後退の危機にあるのでしょうか？

皆様とともに考えたいと思うのですが、このジレンマの根源には、十分な動機付けがないことだと思うのです。持続可能な将来を担う政策、取り組み、実践に対して優先度を高める動機付け、我々が既に持っている資源や知識を持続可能な将来のために使う動機付けです。この動機付けはいろいろな要素をもっています。まず、もちろん経済的な自分の欲もあるでしょう。それは、国家レベル、個人レベルのどちらもあります。

しかし、もっとも深いところでは、人々や社会は、自分たちの信条から発する基本的な道徳、倫理的価値や精神的価値によって突き動かされています。ですから、私は地球サミットに

モーリス・ストロング氏　基調講演

おいて、お互いと地球に対する人間や国家の行動の道徳的、倫理的な原則を規定し、合意を得ることが出来なかったことがたいへん残念でなりません。それは、地球上での持続可能な生活を達成するための根底となるはずのものでした。その時は、単に各政府がそこまでの準備ができていなかったのです。その後、地球評議会（The Earth Council）は、たくさんの組織を動員しまして、世界中の何百、何千という人とともに、このリオでやり残した課題に取り組んできました。

そして事実、人々がこの活動の真ん中にいて、力と信頼性を与えてくれたのです。マハトマ・ガンジー氏は、「我々が変わらなければならない。我々が欲する変化を我々がしなければならないのだ。これはまさに真実である」と仰いました。グローバルキャンペーンでは今、何百万人という人を巻き込み、この地球憲章を人々の行動の動機付けや優先度の指針としていこうという取り組みを行っています。そして、それぞれのコミュニティーや政府、組織にも同様に呼びかけています。皆さんもぜひこの地球憲章に取り組んでいただきたいと思います。プログラムの中でも、皆さん覚えてらっしゃるようにカムラ・ショードリー氏もおっしゃっていましたし、昨晩は、日本のアースチャータームーブメントの代表の方からもお話も伺いました。

すでに申しましたように、将来の方向付けというのは、この新しいミレニアムの最初の数十年で決まります。ですから、このリーダーシップサミットの「ミレニアム開発目標達成に向けて次世代を結集」というテーマを嬉しく思っています。このミレニアム開発目標は、2000年9月にミレニアムサミットで策定されたものです。これには非常にたくさんの若者の意見が取り入れられており、あなた方の世代のための課題が提示されています。その目標がどの程度成就されるかはあなた方の双肩にかかっているのです。あなた方に続く人たちの生活とその見通しは大いに、おそらくは決定的に、これらの目標に対し、皆様方が何をするのかということが非常に影響します。国連憲章や人権宣言や地球憲章は、新しい動機付けの規範を与えるような開発の普遍的なガイドラインを示しました。これらは、ミレニアム開発目標の達成を保証するために必要となるものです。あなた方にお願いします。みなさん一緒に、そして個人個人としても、この運動のリーダーになってください。また、これらを皆様方の使命と努力の中心に据えてください。あなた方には能力があるのです。同世代の人たちを新しい希望の旅へ、リーダーとして引っ張っていくチャンスがあるのです。それは、人間の未来の方向を決めるです。この会場に来て、私はあなた方が取り組んでいくことを感じることができます。我々の共通の未来は輝いています。あなた方が未来なのです。そして、その未来はここから、今、始まるのです。

（日本語訳：山添 寛之）

参加者の声

■サミットの成功、おめでとうございます。国際会議は形式的なものになりがちなのですが、今回のサミットは参加者の心が通った大変素晴らしいものだと思います。(海外のゲスト)

■私の家にアフリカのウガンダ出身のロバート・アシエム愛称ボブが着ました。9月18日ずっと楽しみにしていたホームステイの日でした。ウガンダや日本について色々な話を聞きました。ボブから日本について色々と質問され、自分でも知らないことがたくさんあることに気付きました。技術の発展で大国になった日本も今では毎日多くの犯罪が起こっています。日本はこれから心の面を学ばないといけないと思いました。少しの間でしたが直に体験することで視野が広がったように感じています。世界に貢献できるように夢を持って努力していきたいと思います。　(高校2年)

■分科会のメンバーがプログラム時間外にも自発的に集まり、真剣な話し合いを行いました。それぞれの抱える問題は大きく、そして一概には結論を導けないようなものばかりでした。

問題をお互いに聞きあい、解決に向かって取り組む仲間達の存在を確信し合えた事、そして具体的な取り組みを導けたことは大きな収穫でありました。 このネットワークを大切にしていきたいと思っています。(プログラムコーディネーター)

■アジアの青年達のネットワークが作られることは、大変すばらしい事です。今後の彼らの活動とShumeiのサポートに期待しています。　(プレス関係者)

■ぜひShumeiから次のサミットへの参加者を出してください。そして、一緒にニューヨークの世界サミットに行きましょう。
(主催者スタッフ)

この会議は、母体である神慈秀明会が国連NGOを取得して、初めて国連主催の会議をサポートすることとなり、秀明インターナショナルが実務を行いました。また、現地のスタッフは、地元広島の秀明インターナショナルメンバーが勤め、スムースに会議が進行することに貢献しました。

会議の目的は、2000年ニューヨークで行われたミレニアムサミットで採択された、「ミレニアム開発目標（MDGs）」達成に貢献するために行われます。

今回の会議に先駆けて、少しでも青年達の交流が深まればという趣旨で、秀明インターナショナルが事前プログラムを計画しました。内容は、MIHOミュージアム拝観、黄島訪問、広島スタッフがホストファミリーとなるプログラムです。今回の会議には、UNDPが招聘した青年が、アジア太平洋地域を中心に約100名参加しましたが、その内、13名が、16日～19日の事前プログラムに参加し、秀明からも13名の青年が、それぞれパートナーとなって参加しました。このプログラムが青年の交流に大いに役立ち、19日から参加した多くのメンバーが早くうち解けるのに良い効果となりました。

会議は二泊三日の短いものでしたが、貧困と平和問題解決にどのように取り組んでいくか、有意義な話し合いがなされました。日程は、19日が参加登録と歓迎夕食会。20日本会議では午前中にモーリス・ストロング氏の基調講演をはじめ、政府関係者やアジアの諸問題に携わる著名な方々からメッセージ、午後は、アジア地域で活躍する青年リーダーの代表による活動報告。その後、分科会が21日にかけて行われました。活発なディスカッションが交わされ、会議の締めくくりにパンアジアユースリーダーシップサミット宣言「アジア太平洋2015」を採択し、最後に原爆慰霊碑に献花、原爆の子の像へと平和行進をして、各自が各々の持ち場で、世界平和に貢献する志を新たにしました。参加した秀明インターナショナルの青年はじめ、広島スタッフは、皆に喜んでもらいたいと、感謝で、惜しみない奉仕精神を発揮し、そのことが、自然と岡田茂吉氏の精神性を感化する結果となりました。

会議に参加した青年達は、自主的に様々なネットワークを作り、その後も交流を深め、情報の交換や、協力体制を築こうとしています。単なる会議に終わらず、青年の行動力を発揮して、世界平和に貢献していくことが今後期待されます。

秀明インターナショナル 副理事長
西田　幸生

NPO法人 Shumei International 設立記念

ポール・ウィンター・バレンタインコンサート

2004年 2月14日

2月14日（土）滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール大ホールにて「ポール・ウィンター・バレンタイン・コンサート」を開催しました。第二部では秀明太鼓との共演もみられました。公演前のリハーサルを子ども達に無料公開としました。

地球のあちこちから呼びかける声
海からわき上がる音楽
朝の気が周囲を満たし
僕たちの旅を導いてくれる

森の彼方の道はどこにいったのだろう？
いつも歌っていたあの歌は？
たしかあそこの角を曲がってすぐのところにあったはず
村では決して音楽が鳴りやまない

友達の輪の中で
音の和の中で
同じ――コモン・グランド――に触れ
みんなの声が一つになる
（コモングランドより 日本語訳宮本貞雄）

ポール・ウィンター

ポール・ウインターは、石造りの教会、峡谷、納屋のロフトといった自然の音響空間で録音しています。彼は、類まれなソプラノサックス奏者であるだけでなく、ジャズをルーツとしてバッハからアフリカ、そしてチェロからザトウクジラ、オオカミまでを音楽に取り入れました。彼は音楽を通じて「大自然（地球）への感動」を伝えて続けています。これまでにグラミー賞を3度受賞しているほか、国連グローバル500賞、国連環境計画功労賞、米国動物愛護協会ジョセフ・ウッド・クラッチ賞などを受賞。1994年より聖ヨハネ大聖堂で夏至コンサートを行うなど、地球環境保護に通じる多くの活動を30年にわたり続けています。

秀明太鼓

1982年に結成されて20年余。根底とするのは、自然を愛する心、世界の平和を祈る心。結成以来和太鼓と笛によるシンプルな演奏形態は今も変わりません。近年ではアメリカ、ヨーロッパ、南アフリカ、香港などでの演奏、国連プログラムへの参加と活動が海外へと広がり、本年7月には、スペイン・バルセロナで行われた世界文化フォーラムにも参加、国連本部（ウィーン）でも演奏を行いました。サクラダ ファミリア（聖家族教会）の前に集まった1万人の聴衆の前での演奏は大好評を博しました。

無料公開リハーサル

本番に先駆けて行われた公開リハーサルには、滋賀県下から小学生以下の子ども達を無料招待し、本物の音楽に触れてもらおうと地元のNPO団体 子どもの美術教育をサポートする会の協力を得て、800余名の子ども達が2時間に及ぶリハーサルを楽しみました。中には日頃音楽会に足を運ぶことの困難な障がいを持った子ども達の姿も見られました。秀明インターナショナルが今後も力を入れていきたい活動の一つが、この芸術教育です。

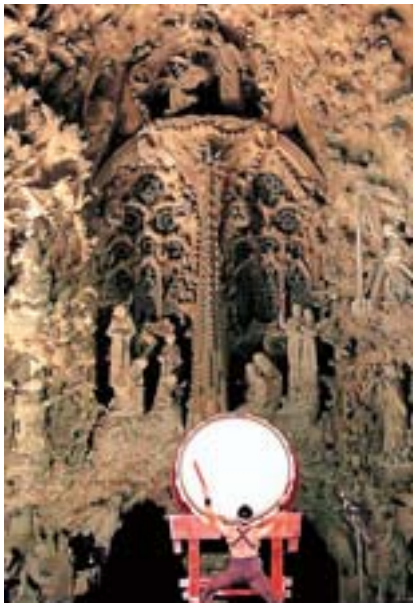
音楽の東西融合

ポール・ウィンター・コンソートと秀明太鼓の出会いは2000年に遡る。アメリカ合衆国ペンシルバニア州の郊外、ロデール研究所主催のイベントで初共演。本年2月ポール・ウィンターの来日が決り、4年ぶりの再会、そして記念すべきこの共演につながることとなりました。

滋賀県が誇る琵琶湖を一望できる県立びわ湖ホール。音楽の東西融合－観客達が残したアンケートには、この言葉が多くみられました。共通するのは、地球を愛し、自然を愛し、平和を願う心。西洋音楽と東洋音楽が共演すると聞くと、一瞬不安にもなる取り合わせですが、それは驚く程にマッチし、音楽に新しいジャンルが誕生したかに見えるほどで見事な共演となりました。洋の東西を越えて奏でられるハーモニーに酔いしれ、この類まれな機会に参加できた興奮からか観客達の高揚した顔が強く印象に残りました。

秀明太鼓
ヨーロッパーツアー

2004年 6月19日〜7月19日



6月19日、フランクフルトを皮切りに秀明太鼓ヨーロッパツアーが始まりました。

ハイデルベルグ、ベルリン、ミラノ、ウィーン、国連本部、と続きその後スペインに移りました。7月10日バルセロナのサグラダファミリアにて行われた世界の平和を祈る「聖なる音楽祭」に参加。約2万人ともいわれる聴衆を前に大喝采を浴びる熱演を披露しました。その後再びドイツに戻り、7月19日まで延べ22回の演奏が行われヨーロッパツアーは幕を閉じました。

1ヶ月間のツアーで、約45,000人の人々が秀明太鼓の響きを体験しました。秀明太鼓のシンプルで力強く緊張感のあるステージ、全身全霊から叩き出されるその響きは多くの人の魂を揺さぶりました。

人々の感想の中には「悩みが吹き飛ばされたようだ」「振動に触れて瞑想するような感じだった。一曲一曲が祈りように感じた。」(音楽家)、「しばらく自分は 笑顔を忘れていましたが、一緒に仕事をしていつのまにか笑顔を取り戻していました。」(スタッフ)、「生きる勇気を頂いた。」(両足を失った車椅子の方)、「太鼓のバイブレーションが体に入ってきて、とても平和な気分になりました。」、「すごいエネルギーを頂きとても元気になりました。」というように太鼓の音を通して癒されたという体験をされた方も多くいらっしゃいました。

秀明太鼓結成22年。太鼓の響きに祈りを込めて－活動はますます広がりを見せています。

アンサンブル・チェリシム2004

2004年 8月29日

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール小ホール

8月29日（日）には、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール小ホールにてチェロコンサート「アンサンブル・チェリシム2004」を行いました。

アンサンブル・チェリシムは、1985年結成されて以来チェロの持つ音域の広さと多様性を充分生かした重厚で繊細な演奏で、フランスを中心とし各地で演奏活動を行っている。メンバーの4人はいずれもフランス内の大学にてチェロの教授を務める実力派です。

昼の部は、夏休み最後の日曜日にご家族でコンサートにお出かけ頂こうとファミリーチケットをご用意しました。チェリスト達も快く協力してくれ、曲の説明やコンサートマナーなどユーモアを交えながらの和気藹々とした雰囲気となりました。クラシックは難しいような気がして‥という人達にも、タンゴや日本の伝統曲、パフォーマンスを織り交えたプログラム構成にあっという間に時間は過ぎていきました。本当に満足そうな子ども達の顔を見た瞬間の感激はひとしおのものでした。

光る水面が美しい琵琶湖の夏の夕暮。夜の部が開演です。チェリスト達の表情もピリッと引き締まり、本格的なコンサートとなりました。気持ちの良い緊張感に包まれた演奏は、クラシック通の方々に充分ご満足の頂ける素晴らしい内容でした。弦楽四重奏の楽曲がチェロのために編曲され、チェロ四重奏のためのオリジナル曲も披露、民謡、タンゴと幅広いレパートリーに観客は魅了されていました。

アンサンブル・チェリシムのメンバーは、8月31日MIHO MUSEUM（滋賀県甲賀市信楽町）乾山展内覧会での最終公演を終え、再会を約束して日本を後にしました。

地球交響曲第五番 上映会 ＆ 龍村監督講演会

2004年 10月16日

大津シネマ7

10月16日（土）龍村仁監督をお招きし、地球交響曲第五番（ガイアシンフォニーNo.5）上映会＆講演会を行いました。街にはまだ半袖姿の人も見受けられるほど温かな秋晴れの日となりました。

地球交響曲シリーズは、「"母なる星地球（ガイア）"は、それ自体が一つの大きな生命体であり、我々人類は、その大きな生命体の一部分として、他の全ての生命体と共に、今、ここに生かされている」を基本コンセプトとしています。地球交響曲は、地球環境の美しさ大切さを訴えかけるだけでなく、ひとりひとりの無限の可能性に言及するドキュメンタリー映画。今回の第五番は「全ての存在を繋ぐ、見えない力の存在を描き出したい」という想いで制作されています。

龍村監督は、地球交響曲誕生から現在までをエピソードを交えつつお話してくださいました。あっという間の1時間。最後は、「現在この地球上に生かされている私達人類ひとりひとりの小さな選択に地球の未来が掛かっているのです」というメッセージで締めくくられました。

日常から離れた大きな視点に立って、これからの私たちの生き方を考える貴重な機会となったことでしょう。活動に取り組む個人個人をつないでいけるようなサポートを秀明インターナショナルは行っていきたいと考えています。

MIHO MUSEUM～障がいのある方の特別開館

2004年 5月24日・10月25日

MIHO MUSEUM

5月24日（月）と10月25日（月）の年2回。開館期の休館日にMIHO MUSEUMの全面的協力により「障がいのある方の特別開館」を行いました。訪れた子ども達とその保護者の方々はのびのびと美術館を楽しんでいらっしゃいました。

「開館日となると、他の来館者への配慮もあり子ども達に注意をしなくてはならない場面も出てきてしまうのですが、今日は思う存分に楽しんで頂けていると思います」というMIHO MUSEUMスタッフの声も聞かれました。子どもの美術教育に携わるMIHOスタッフによるスタンプラリーに興じ、真剣に美術品を見つめる目はキラキラと輝いてみえました。その後は思い思いに美術品を鑑賞、存分に満喫されたご様子でした。5月に参加された自閉症のお子様をお持ちのご父兄から、「子どもがこんなに楽しそうに美術品をじっと見る姿を初めて見ました。素晴らしい企画をして頂き本当に嬉しいです。またぜひ参加したいです」と大変嬉しい感想が寄せられました。MIHO MUSEUMは文部科学省協力事業として芸術教育活動に熱心に取り組んでいます。秀明インターナショナルとしても、この特別開館を継続し多くの人達に芸術に触れて頂く機会を提供していきたいと考えています。

秀明自然農法しがらきの里紹介

自然に順応していく生き方

秀明自然農法とは・・・

秀明自然農法は岡田茂吉（1882～1955）が提唱した自然栽培法で、自然堆肥以外、些かの不純物も混ぜることなく、土を清浄化し土自体の力を発揮させる農法です。岡田氏の言葉に、『自然がすべてを教えてくれる』とあり、深い自然への尊敬と、自然に順応する農法であって、清浄な土と、自家採種された清浄な種と、生産者の作物への愛情と大地への感謝によって成り立ちます。

平成16年10月30日(日)、滋賀県信楽町田代、大戸川のほとりに葦葺き屋根の古民家が二棟、姿を現しました。古民家と辺りに広がる田畑、山々、小川のせせらぎ、森の散策道、これが「秀明自然農法　しがらきの里」です。ここは、NPO法人　秀明自然農法ネットワーク(SNN)の活動拠点として誕生しました。SNNでは、秀明自然農法で野菜やお米を作り国内外の団体、個人と交流を図っています。

しがらきの里では日本各地に見られた山里の風景を再生。そして訪れた皆様に体感して頂くことにより現代人が忘れた暮らしを、そして自然に即して生きることの尊さを取り戻して頂きたいと考えられています。

秀明インターナショナルは、この古民家の2階に新しい事務所を開設しました。私たちのスタッフが常駐します。豊かな自然に囲まれた農と食と芸術･･･理屈ではなく、心と体で何かを感じていただけることと思います。おくどさんから上がる煙がきっと皆様を温かくお迎えします。

なんだかとってもほっこり、懐かしい。ぜひお気軽にお立寄りください。

〒529-1814
滋賀県甲賀市信楽町田代316
NPO法人 秀明インターナショナル
しがらきの里事務所
TEL.0748-82-8033
FAX.0748-82-8083

Shumei
NPO法人 秀明インターナショナル
〒529-1814 滋賀県甲賀市信楽町田代 353-1
TEL.0748-82-3140　FAX.0748-82-3170
E-mail : info@nposhumei.or.jp
http : //www.nposhumei.or.jp

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています
PRINTED WITH SOY INK
VOCs ゼロ ZERO 環境にやさしいVOCs成分ゼロのインキを使用しています